

授業科目名 <英訳>	地質科学野外巡検 I A Field Excursion for Geological Sciences IA		担当者所属・ 職名・氏名	理学研究科	教授	酒井	治孝				
	理学研究科	教授		山路	敦						
			理学研究科	教授	平島	崇男					
			理学研究科	准教授	成瀬	元					
			理学研究科	助教	堤	昭人					
			理学研究科	助教	松岡	廣繁					
			理学研究科	准教授	河上	哲生					
			理学研究科	助教	佐藤	活志					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	その他	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
科目番号	3534										
【授業の概要・目的】											
<p>授業の概要：地質学を実践的に野外で学ぶ実習。地質学を学ぶ上で基礎となる代表的な地層、岩石、鉱物、地質構造、地形などを見学する。西南日本の各地に日帰り、あるいは泊まりがけで行くために、本授業は週末に実施することが多い。</p> <p>主な見学対象は以下の通りである。</p> <p>整然層の堆積環境と化石、付加体堆積物、変成岩・変形岩、オフィオライト、地震断層、日本海の拡大に伴う堆積岩や火山岩および小断層。</p> <p>天候によって延期・中止になることがあるので、実施については、地球惑星科学専攻の事務室前の掲示板に注意すること。</p> <p>授業の到達目標、およびテーマ：地層や岩石・鉱物には固体地球とそれを取り巻く大気・海洋・生物圏の46億年にわたる変動史が記録されている。この授業では、地質学上重要な事象を実地に見学・観察し、野外で各種データを読み出す方法や地層・岩石・鉱物・化石などの採集方法を取得し、野外地球科学者としての基本能力を習得することを目指す。</p>											
【到達目標】											
机上で学んだ地質学・鉱物学の知識を、野外観察や調査によって具体的に身につけ、独立して地質調査を行なうことができるように野外調査の基本を身につける。この科目の履修によって、卒業研究での野外地質調査や試料採取の方法を身につけると同時に、教室で学んだ知識の理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<p>例年の見学対象と実施日数は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地層（整然層）の堆積環境と化石の観察（野洲川・泉南、日帰り・2回、担当：生形・松岡）</li> <li>2. ジュラ紀付加体の放散虫チャートと海溝充填砂岩のルートマップ（犬山、日帰り、担当：酒井・佐藤）</li> <li>3. 日本海拡大に伴い形成された堆積岩や火山岩（敦賀、日帰り、担当：山路・佐藤）</li> <li>4. 花折断層、古生代付加体（超丹波帯）とオフィオライト（夜久野岩類） 新生代火山岩類（夜久野、1泊2日、担当：平島、河上、堤）</li> <li>5. 現世干潟の堆積物（日帰り、担当：成瀬）</li> </ol>											
【履修要件】											
この授業は講義室で学んだ内容（座学）を、野外で実地に観察し、その実態を把握することに意義がある。そのため、地学関連講義を事前に履修しておくこと。											
----- 地質科学野外巡検 I A (2)へ続く -----											

## 地質科学野外巡検ⅠA(2)

さらに野外調査は、室内実験では起こりえない様々な危険と隣り合わせである。各自の責任で、各種学生傷害保険に加入し、不幸にも自己に在った時の保障体制を担保しておくこと。

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

出席とフィールド・ノートの提出を必須要件とする。巡検によっては、見学対象のレポート作成を課す。レポートの提出も成績評価に含める。出席(60点)、レポート・フィールドノート(40点)

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する  
巡検毎に適宜指示する、あるいは資料を配付する。

### [授業外学習(予習・復習)等]

野外巡検に際して事前に配付されたプリントを良く読んで、巡検対象について自習すること。必要に応じて文献調査も指示する。

### (その他(オフィスアワー等))

積極的な授業参加を希望する。オフィス・アワーは特に定めないが、授業終了後に質問を受け付ける。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。